



令和8年度 6月号 令和8年5月29日

新治小学校だより

みつめる かかわる かんがえる



にいはるん

「ホタルを守り、子どもを見守る——地域に広がる美しい共鳴」

副校長 佐野 ^{みほ}美秀

初夏の訪れとともに、夜の清流を優しく彩るホタルの光。闇の中に光がまたたく景色は、それだけで息をのむ美しさですが、時に私たちは、さらに神秘的な光景を目にすることがあります。数え切れないほどのホタルが、まるで一つの大きな生き物であるかのように、まったく同じタイミングで一斉に光り、一斉に消える——「集団同期」と呼ばれる、光の共鳴現象です。先日「にいはる見守り隊」隊長の和田さんに導かれ、杉沢堰で職員らと共に、運よく見ることができました。

それぞれのホタルは、本来バラバラのテンポをもっています。しかし、隣り合うホタルの光を感じ取り、少しずつ自分のリズムを相手に合わせていくことで、やがて森全体がひとつの大きな呼吸をするように、見事な調和が生まれるのだそうです。このホタルの共鳴は、私たち人間の「集団ダイナミクス（集団力学）」、つまり人と人とが互いに影響を与え合い、変化していく姿によく似ています。

とりわけ、学校や地域という集団の中で過ごす子どもたちの世界には、この「共鳴」があふれています。一人ひとりが異なる個性やペースをもった子どもたちですが、集団の中で過ごすうちに、不思議な一体感が生まれていきます。特に行事など一人が「がんばろう」と一歩踏み出す光を放つと、隣の子がそれに呼応するように輝き出す。バラバラだった個性が一つの大きなエネルギーへと育っていくプロセスは、まさにホタルの光が揃っていくあの瞬間そのものです。

しかし、この美しい共鳴が生まれるためには、大切な前提があります。それは、彼らが安心して光を放てる「環境」があるということです。新治と同じく近年、各地で「ホタルを守る活動」が行われています。ホタルが自らの光を放ち、命を繋ぐためには、清らかな水や、身を隠す草むら、そして暗闇という静かな環境が欠かせません。この環境を守るための地道な活動は、実は私たちが日々行っている「子どもを見守る活動」と深く重なり合います。

子どもたちという小さな光が、自分の個性をすくすくと伸ばし、社会の中で健全に響き合うためには、大人が作る「安心・安全な環境」が必要です。登下校の安全を見守る地域の目、失敗しても否定されない家庭や学校の温かい空気。それらの一つひとつが、子どもたちにとっての「清流」であり、安心して輝くための舞台となります。

ホタルたちは、お互いを否定することなく、ただ静かに相手の光を感じ取りながらリズムを合わせていきます。私たち教職員もまた、このホタルの住む環境を守るように、子どもたち一人ひとりの多様な光を温かく見守る存在でありたいと考えています。子どもたちが自分らしく輝き、互いに心地よく響き合える学校であるために、私たち教職員一同、互いに知恵を絞り、力を合わせて全力で取り組んでまいります。

保護者の皆様、そして地域の皆様、これからも子どもたちの健やかな成長の環境をともに築いていくパートナーとして、温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

はまっ子交通安全教室の様子

